

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



2011年度環境活動レポート

(対象期間:2011年 10月～2012年 9月)

発行日: 2013年1月15日
改定日: 2013年6月7日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なって参ります。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2011年07月07日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社:兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
本社工場: 同上

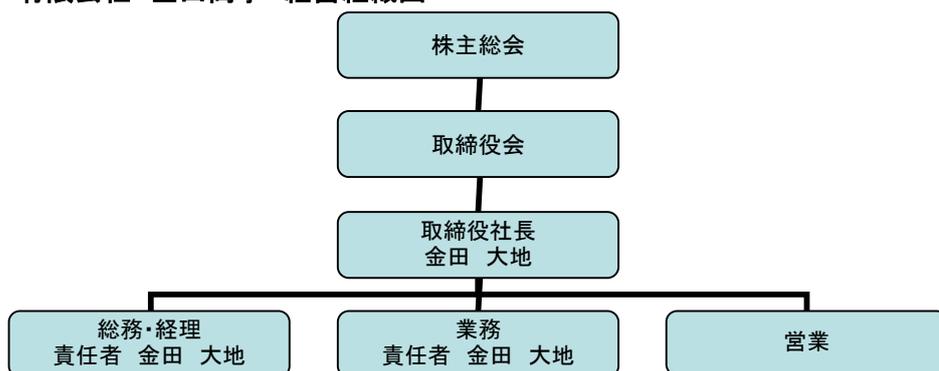
(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



前会社法の定める有限会社となっております。

- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっておりません。

総務・ 経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)

- ・金属くず商
- ・古物商
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 2.81億円 (2011年度)

主要商品取り扱い量 6,378t (2011年度)

※事業年度期末時点

活動規模	単位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
取り扱い数量	t	8,018	6,198	7,120	6,052	6,388
内訳:金属スクラップ	t	8,007	6,184	7,108	6,045	6,378
内訳:産業廃棄物 (収集運搬)	t	11	14	12	7	10
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	477	172	286	324	281
従業員	人	3.0	3.0	4.0	4.0	5.0
床面積	m ²	580	580	580	580	580
保有貨物車両台数	台	3	3	3	3	3
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	3	3	3	4	4

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分:事務機器類

◆扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成24年1月22日

許可の有効年月日:平成29年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず

7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成24年1月18日許可更新

平成24年1月18日変更許可

以下余白

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディカー	1
7t積み平ボディカー	1
4t積みユニック搭載平ボディカー	1
荷役車両	台数
2.5t揚力フォークリフト	3
油圧式バックホー(0.25㎡クラス)	1
乗用車両	台数
普通乗用車	1
軽自動車	1

※取引先構内車を含む。

(11) 処理実績

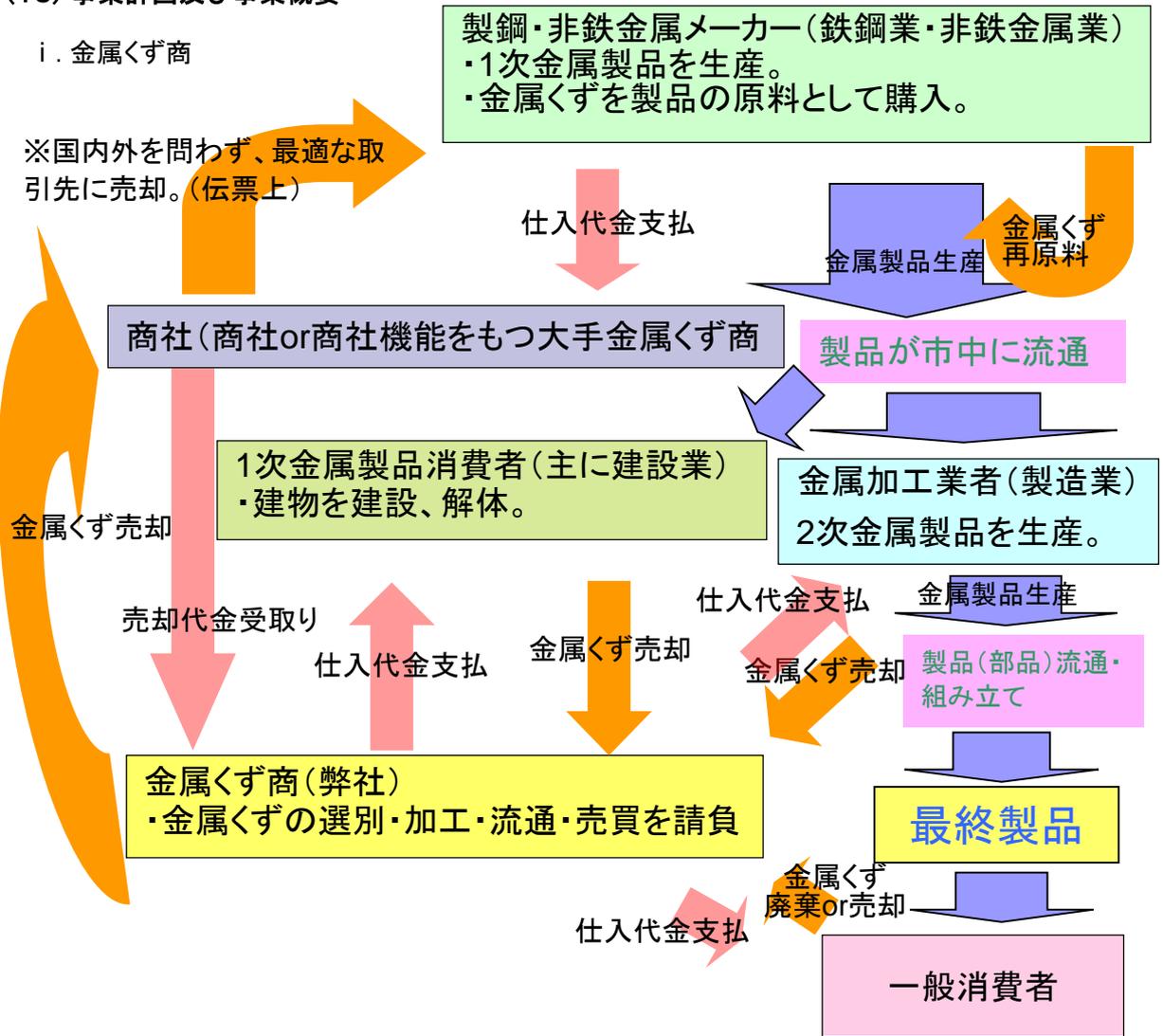
産業廃棄物(収集運搬)	単位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
廃プラスチック	t	11	14	12	7	10
産業廃棄物収集運搬 合計	t	11	14	12	7	10

(12) 廃棄物処理料金

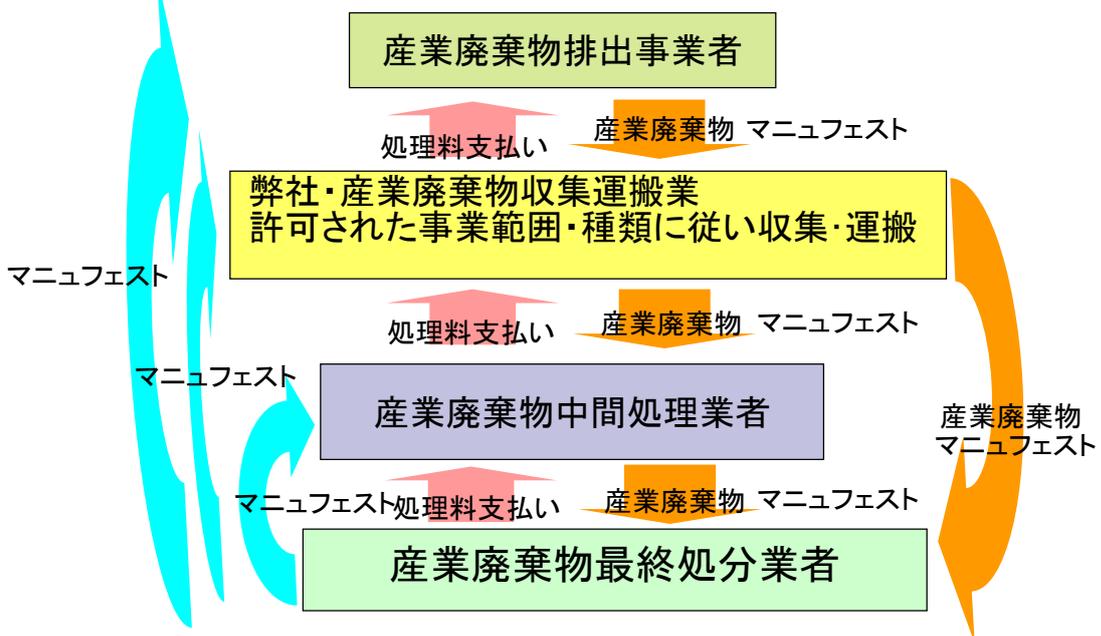
取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(13) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2007年 (基準年度)	2008年	2009年	2010年	2011年
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	56,216.49	47,249.23	48,375.70	44,061.96	42,753.24
廃棄物排出量	kg/年	1,620.00	3,580.00	3,260.00	5,460.00	5,343.00
一般廃棄物量排出量(自社)	kg/年	170.00	2,110.00	920.00	900.00	166.00
一般廃棄物量排出量(選別)	kg/年					630.00
産業廃棄物排出量(自社)	kg/年	1,450.00	1,470.00	2,340.00	4,560.00	41.00
産業廃棄物排出量(選別)	kg/年					4,506.00
総排水量	m ³ /年	24.00	30.00	32.00	37.00	41.00
受託した産業廃棄物の 処理量	トン/年	11.43	14.13	12.13	6.99	9.92

□環境目標及びその実績 *2009年度末までは、電力使用量の二酸化炭素排出係数は0.378kg-CO₂/kWhを使用。

・環境負荷削減目標 *2010年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.366kg-CO₂/kWhに変更使用。

項目	年度	2007年	2011年		2012年	2013年
		(基準年度)	(目標)基準 年度比97%	(実績)	(目標)基準 年度比96%	(目標)基準年度 比95~95.5%
1.電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	2,632.39	2,472.36	3,453.58	2,527.10	2,513.93
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	43,236.03	41,938.95	31,738.14	41,506.59	41,290.41
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	4,900.91	4,753.88	3,689.70	4,704.87	4,680.37
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	358.84	348.07	179.42	344.48	342.69
5.LPGの二酸化炭素排出量削減(基準年度を通期使用実績のある2008年度に変更)	kg-CO ₂	5,088.32	4,935.67	3,692.41	4,884.79	4,859.35
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	56,216.49	54,448.93	42,753.24	53,967.83	53,686.75
6.一般廃棄物の削減	(kg/年)	170.00	164.90	166.00	163.20	161.50
7.産業廃棄物の削減	(kg/年)	1,450.00	1,406.50	41.00	1,392.00	1,377.50
8.節水	(m ³ /年)	24.00	23.28	41.00	23.04	37.50

・取り扱い数量目標

項目 \ 年度		2007年	2011年		2012年	2013年
		(基準年度)	(目標)基準 年度比115%	(実績)	(目標)前年度 比103%	(目標)前年度比 102%
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:基準年度比110%)	トン/年	8,007.41	8,808.15	6,378.15	6,569.49	6,700.88
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:基準年度比115%	トン/年	14.13	15.54	9.92	10.22	10.42

・グリーン購入の推進

項目 \ 年度		2009年	2011年		2012年	2013年
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比+1品・点	(実績)	(目標)基準 年度比+1品・点	(目標)基準 年度比+1品・点
11.グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数 /年	5	6.00	6.00	7	8

・地域貢献活動

項目 \ 年度		2009年	2011年		2012年	2013年
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比+1回・+1 本	(実績)	(目標)基準 年度比+1回・ +1本	(目標)基準 年度比+1回・+1 本
12.弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回/ 年	1	2.00	4	3	4
清掃活動…空き缶・ペット ボトル拾い	単位:本/ 年	19	20	37	21	22
項目 \ 年度		2009年	2011年		2012年	2013年
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比101%	(実績)	(目標)基準 年度比102%	(目標)基準 年度比103%
②周辺住民の方々からの 金属くず買い受け。	単位:kg/ 年	1,745.70	1,763.16	24,825.90	1,780.61	1,798.07

□環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
1.電力の二酸化炭素排出量削減	基準年度	2,632.39	kg-CO2	目標未達成
*2010年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.366kg-CO2/kWhに変更使用。 ①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動 ③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。 上記 達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要な場所以外消灯している。	目標	2,472.36	kg-CO2	評価:悪い。累計で全12か月目標未達。月次では、念願の目標達成を1回、残り11ヶ月で、目標未達成となった。最大の課題であった業務効率の向上が、設備投資と人員増員によって徐々に出来てきているようだ。しかし、大きく改善されたわけではなく、大変残念だ。冷暖房の設定温度は、引き続き冷房28℃暖房20℃とし、冬季の暖房として、CO2排出係数の少ない電力(エアコン)を使用し、灯油の使用量を控えた為、余計に使用量が増加。(ちなみに灯油使用量は目標値比47%下回る。)プラズマ切断機等の電気工具の使用も電力使用量を増加させているようだ。来年度は、さらに節電できるような努力をしたい。
	実績	3,453.58		
	削減量	-981.22	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.40		
				今後、冷暖房効率を上げる施策を検討。
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	43,236.03	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○出来るだけ行っている。 ②…○出来るだけ行っている。 ③…○出来るだけ行っている。 ④…×車両の買い替え無し。 ⑤…△自主点検・清掃のみ。	目標	41,938.95	kg-CO2	エコドライブの定着と運搬効率の向上で、Co2目標値を24ポイント下回り、目標達成となった。納品頻度・先ルートとの改善により、軽油の使用量が抑えられ、結果、CO2の排出量が減少した。努力を継続していきたい。 商品1tの運搬に当たり、仕入納品を含め、201.27kg-CO2の排出量となっている。
	実績	31,738.14	kg-CO2	
	削減量	10,200.81	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.76		
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	4,900.91	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○出来るだけ行っている。 ②…○出来るだけ行っている。 ③…○出来るだけ行っている。 ④…×車両の買い替え無し。 ⑤…△自主点検・清掃のみ。	目標	4,753.88	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、年間累計目標値22%削減。目標達成となった。7~9月の使用量が大きく削減できたことは、良い。ただ、月次目標値を達成できない月が、5回あり、警戒が必要である。営業・企業活動を行ないながら、いかに環境負荷を軽減するかを考える必要がある。 燃費の管理について、原単位での個別評価の採用を検討したが、事務作業が煩雑すぎる欠点がある。今後、容易な管理方法を考えたい。
	実績	3,689.70	kg-CO2	
	削減量	1,064.18	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.78		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	358.84	kg-CO2	目標達成
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 ②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームビズ運動	目標	348.07	kg-CO2	冬季の暖房として、CO2排出係数の少ない電力(エアコン)を使用し、灯油の使用量を控えた結果、目標値を48%弱下回り、目標達成となった。
	実績	179.42	kg-CO2	
	削減量	168.65	kg-CO2	
上記 達成手段実践状況評価	目標対実績比率	0.52		寒冷期には、冷気を遮断する断熱シートの使用を決定。
①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 貸与制服に防寒具を加えた。				
5.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	5,088.32	kg-CO2	目標達成
(基準年度は2008年度) エコドライブ運動展開	目標	4,935.67	kg-CO2	このLPGは、午前・午後の1日計2便へ鉄スクラップを積み込むフォークリフトの燃料だが、スクラップの発生量の減少により、1日1便となり、使用頻度が約1/2になったため、目標値より、25.0%の削減となった。
①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施	実績	3,692.41	kg-CO2	
削減量	1,243.26	kg-CO2		
上記 達成手段実践状況評価	目標対実績比率	0.75		ひきつづき、フォークリフトのエコドライブ・エコ操作を心がける。
①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…△ 自主点検・清掃のみ。				

取り組み計画	達成状況		単位口	評価 結果と次年度の取組内容
6.一般廃棄物の削減 ※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったので、評価は、1面的です。 ①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	基準年度	170.00	kg	目標未達成
	目標	164.90	kg	両面印刷、裏紙の使用は、定着した。目標達成には、至らなかったが、当年度より、自社発生量、選別発生量、再資源化量を分けて計測した結果、かなり、良い数値となった。また、再資源化量(古紙リサイクル業者引き渡し)が把握できていることを評価する。
	実績	166.00	kg	分別ボックス(エリア)を設置し、再資源化できないごみは、廃棄、資源ごみは集積し、引き渡ししている。
	削減量	-1.10	kg	今後は、自社発生量のみを削減目標とし、商品の取り扱いに準じて発生する一般廃棄物に関しては、選別発生量、再資源化量(再生事業者へ引き渡し)の数量を管理することとした。
	目標対実績比率	1.01		
7.産業廃棄物の削減 ①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化 上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 大まかな品目ごとに分別。 ②…△ 別段教育は行っていないが、品目ごとの分別は皆行っている。 ③…△ 一部再生事業者へ売却。	基準年度	1,450.00	kg	目標達成
	目標	1,406.50	kg	当年度より、自社発生量、選別発生量、再資源化量を分けて計測した結果、飛躍的な良い数値となり、目標達成。基準年度もそうだが、産廃のほとんどは、商品の選別残渣であり、自社発生量はごく少量。有価物化の可能な品目については、前年度に加え、産廃中最大量である廃プラスチック類(被覆プラその他)の再生事業者を見つけ出し、そのほとんどが有価物取引により、大幅削減が出来た。
	実績	41.00	kg	今後は、自社発生量のみを削減目標とし、商品の取り扱いに準じて発生する一般廃棄物に関しては、選別発生量、再資源化量(再生事業者へ引き渡し)の数量を管理することとした。
	削減量	1,365.50	kg	
	目標対実績比率	0.03		

取り組み計画	達成状況		単位口	評価 結果と次年度の取組内容
8.節水	基準年度	24.00	m ³	目標未達成
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化 上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。 ②…○ 手洗い時の水の出しっ放しをしないよう指示教育した。	目標	23.28	m ³	節水の呼びかけは、行なっているが、未達成。原因は判明しており、 ・従業員1名増員(計5名) ・ガス溶断時 除熱・消火準備水。 ・所内清掃回数の増加 であり、業務に必要な使用であり、問題ではない。今後も、出来る限りの節水を行う。 無駄遣いをせず、使用量が大幅に増加しないように今後管理していくことに重きを置くようにした。
	実績	41.00	m ³	
	削減量	-17.72	kg	
	目標対実績比率	1.76		
	増加量	-2,430.01	t (トン)	
9.有価物の取り扱い量増加	基準年度	8,007.41	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 仕入顧客登録数前期末比純増数395件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確認。	目標	8,808.15	t (トン)	非常に悪い。月次、累計目標ともに達成ならず。昨年度取扱量比332tの増量があり、昨年度より、0.6%改善。しかし、年次で目標値を平均30%超(30.73%)下回っており、今後も、主要取引先の大幅な発生量増加は、見込めないことから、経営の観点からも取扱量増加をめざし、来期10月からを念頭に、目標達成に向け努力する。 取り扱い数量を伸ばす目的で、人員1名増員。一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化も継続。絶対値としての環境負荷が増すことになるが、省力化された資源のリサイクルフローを目指す。ただ、年率5%の増加は、目標設定が高すぎるので、見直すことを決定。
	実績	6,378.15	t (トン)	
	増加量	-2,430.01	t (トン)	
	目標対実績比率	0.72		
	増加量	-5.62	t (トン)	
10.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	14.13	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化 上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 新規契約数前期末比純増数2件 ②…× 既存産廃処理事業者との関係性により、積極営業に出れなかった。 ③…× 経理的基礎を重視するため、価格の減額を行なわなかった。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHP	目標	15.54	t (トン)	悪い。目標値には、及ばないが、昨年度比2.93t、29.5%の増加。利益面から収集運搬よりも、主軸の金属スクラップ取引に、経営資源を傾注しているため、取扱高増加の目標は達成出来ていない。標準化された効率的業務が行えるよう週1や月1ペースといった定期収集運搬契約の受注を目指して営業活動を行うことを指示。 前事業年度の許可更新時に、収集運搬の許可の範囲を産廃種類を3種類から8種類に増やすことができた。幅広い業種からの業務委託を受注する。
	実績	9.92	t (トン)	
	増加量	-5.62	t (トン)	
	目標対実績比率	0.64		
	増加量	-5.62	t (トン)	
11.グリーン購入の推進	基準年度	5.00	品・点数	目標達成
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、1品数・点数以上増加させる。[単位:品数・点数] 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ マークのリストを備え置いた。	目標	6.00	品・点数	評価:良い。消耗品を中心に、グリーンマーク、エコマーク、省エネマーク等のリストにある物品やリサイクル品の購入を心がける雰囲気、社内に根付き購買行動が変化してきたことが評価できる。今後も知識を深め環境負荷低減を目指していく。
	実績	6	品・点数	
	増加量		品・点数	
	目標対実績比率			
	増加量		品・点数	

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価 結果と次年度の取組内容
12.地域貢献活動	基準年度	1 19	回 本	目標達成
①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	目標	2.00	回 本	評価: やや良い。清掃活動を弊社周辺、用水路を中心に通期で合計3回行った。空き缶等金属くずに関しては、弊社の得意とするリサイクル資源として処理した。
	実績	3 20	回 本	
	増加量		回 本	
	目標対実績比率			
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。 目標: 買い受け数量を前年度比1%増加させる。 主要買受け品目: アルミ缶・金属製不用品 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 自治会・子供会、伊丹市内在住の方から幅広い買取を行うことが出来た。	基準年度	1,745.70	kg	目標達成
	目標	1,763.16	kg	評価: 良い。清掃活動は前期3回から今期4回へ増やすことが出来た。金属買取につき、周辺住民様の集計対象を弊社から半径5km圏内(主に伊丹市全域)に広げた結果、取引実績が大幅に増えた。今後も知識情報を周知することで、地域に貢献できるよう努力したい。
	実績	24,825.9	kg	
	増加量		kg	
	目標対実績比率			今後、より知識を広める活動を行なうことで、地域に貢献できるよう努力したい。
総括 取締役社長 兼 環境管理責任者 金田 大地				
<p>・12項目中、達成が7項目、未達成が5項目となり、全体評価は前年度より良い結果となった。、目下、課題であった産業廃棄物の削減目標につき、自社発生量、選別発生量、再資源化量を分けて計測した結果、飛躍的な良い数値となり、評価を押し上げた。またその中で、廃プラスチック類(被覆プラその他)の有価物取引が実現し、資源としての循環フローが確立できたことは、今期最大の功績である。CO2の排出量は、実績(基準年度)対実績(本年度)で、23.9%減、目標(本年度)対実績(本年度)では、21.6%減となり、前年度より好成績。前年度同様、主に車両関係の化石燃料消費から発生するCO2排出量を削減できた。商品取扱量は前年度よりも増加したものの基準年度に比べれば、数量は大幅に減少しており、これがCO2排出量減少の要因。今後の目標としては、取組計画中、業績に直結する3項目(9.有価物の取り扱い量増加、10.産業廃棄物の取扱量増加、12.地域貢献活動②)を如何に環境負荷を低減した効率的なシステムで達成していくかが持続可能性の面でも重要課題であり、目標達成に向け努力する所存である。</p>				

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)、遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)
廃棄物処理法(収集・運搬業)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上)第21条の4
フロン回収破壊法	事務所空調機
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。
自動車から排出される窒素化	自動車NOx・PM法 適合車の使用。
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中、近隣住民様の苦情申立てにより、振動及び騒音につき、伊丹市 環境保全課の訪問を受けましたが、所在地が準工業地域であること、住民様に今後、是正を行なう約束したことで、ご理解、ご納得いただきました。(詳細は、コミュニケーション記録による。)

□その他の取り組みを紹介

①金属スクラップの選別ダスト有価物化過程

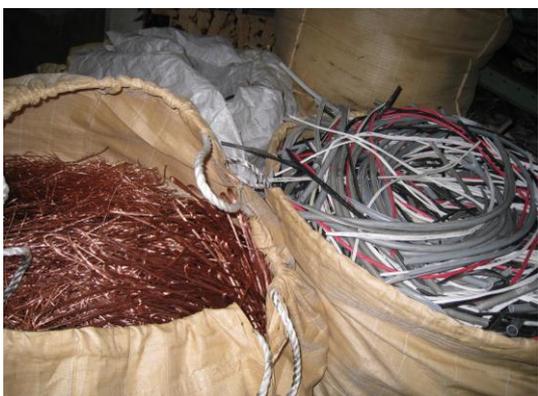
仕入れた金属スクラップをよりリサイクル効率の良い金属資源へと生まれ変わらせるため、選別・分別を行ないます。この過程で、暫定的産業廃棄物が発生しますが、有価物となるものは、取り出し、買取業者へと売却致します。

例1

被覆銅線の被覆(廃プラスチック類)の有価物化

年間有価物化数量: 1,640kg

有限会社 金田商事内にて、銅スクラップと被覆を選別。銅は、商品として納入。
選別ダストである被覆は、廃プラスチック買取業者へ売却。



純粋な銅線(左下)となったものは、最終的に伸銅・銅箔、銅線、銅精錬メーカーへ原材料として納入。
残った被覆(右下)のうち、有価物となる物だけを取り出し、廃プラスチック買取業者へ売却。

※廃プラスチック買取業者名の公表は、弊社の競争力低下を招く恐れがありますので、差し控えます。
正式にご要請があれば、弊社内にて検討し、ご対応させていただきます。

これにより、年間1,640kgの産業廃棄物の削減、有価物化に成功。

②廃プラスチック類の商品としての取扱い開始。

再生可能資源として、有価物である廃プラスチック類に関し、商品としての取扱いを開始いたしました。

例1 某 物流拠点様から、発生致しました不要な廃プラスチック類を搬出・運搬作業を含めた上で、有価物として、買取りました。

当案件品目：プラスチックコンテナ箱
材質：PP
数量：1,780kg



形状、材質、付属物、選別レベル、数量に応じ、買取が可能です。

お取引先様は、当案件において、弊社との取引により、産業廃棄物を1,780kg削減されました。

※廃プラスチック買取業者名の公表は、弊社の競争力低下を招く恐れがありますので、差し控えます。正式にご要請があれば、弊社内にて検討し、ご対応させていただきます。

以上